

「ベトナム社会科学院・ハノイ国家大学サマースクール参加報告書」

京都大学経済学部・経済経営学科4年 住田 健輔

①
本留学を通じて海外から見える日本の視点を体感することができより日本のよさを海外に伝えたいと思うようになったとともに、海外から見える日本の素晴らしい点を守っていきたいと思うようになった。海外から見える日本、今回はベトナムから見える日本は綺麗で、人は自立している印象が強いと聞いた。確かに実際日本は綺麗であるが、特別私が綺麗にしようと活動しているわけではない。そのような人や制度がしっかりしているからこそ海外からうらやましがられるような綺麗さは持続していると思う。そのような環境に感謝しなければならないと感じた。また、自立しているというフレーズを良く耳にしたことも印象的であった。私が出会ったベトナム人の学生は積極的に日本語を学習し留学する意欲に溢れていた。私から見れば数段ベトナム人が自立しているように思えた。しかし彼らはそのように言ってくれることは素直に嬉しいことである。これからも「自立している」ことが日本人の印象として挙げられるように、私自身これから様々な面で胸をはって自立している人間にならなければいけないと感じた。

②
海外経験は2回目であり、1回目はイタリアであったため今回のベトナムは驚くことが多かった。ベトナムはインフラがまだまだ未発達である。例えば信号はあまりないがバイクを乗る人は多くいるため道路を横断するときは常に危ない。また建設途中の建物や道が多いため近くを通るときや中に入るときは非常に恐怖を感じる。しかし最初の1週間で慣れることができた。新しい環境で生活することは、怖く感じたり戸惑うことが多くあるが郷に入り郷に従えばそれなりに生活できる体験ができたことは良かったと思う。しかし慣れてしまえば無理をすることも増えてしまい、2日間熱で寝込んでしまったことは反省点である。やはり現地の人と日本人の体のつくりが異なる部分もあるので、日本人としての危機感を常に持つておくことも学ぶ機会となった。

③
ベトナム人の学生と日本語の学習をともにした。普段文法意識しない日本語の添削や話し方の違和感を伝えるために、主語と述語を意識して日本語を話すようになった。改めて日本語の難しさを感じるとともに、表現の多様さを感じる学習であった。また逆にベトナム語を学ぶ機会もあった。ベトナム語は声調が6つもある。結局6つすべて発音しきれようにはならなかったが、少しでも音の高さが違うとベトナム人にとっては何を言っているのかわからないという体験は新鮮なものであった。

④
本プログラム参加前は海外で働くことは絶対に嫌だと感じていた。それはただ単に日本が好きだからである。しかし海外で働くことも面白いかもしれないと思うようになった。生活してすぐは不安なことだらけであるが、案外すぐに生活には慣れることができた。また2週間では現地の人とあまりコミュニケーションをとれるようにはならなかった。だからこそもっと長い間生活することで様々な人とコミュニケーションを取れるようになればもっと楽しい経験ができると思った。もし海外で仕事をするチャンスがあれば、積極的にチャレンジしていきたいと思う経験になった。